

研 究 会 名	地 域 分 析 研 究 会		
代表者（所属・職名・氏名）	総合情報学部社会情報学科・教授・森 裕一		
趣旨及び活動計画	<p><b>【趣 旨】</b></p> <p>地域社会、人間社会を対象として、その中にあるさまざまな情報を研究することや、現在の「情報社会」の仕組みや諸問題を研究することは、政策、経済、民俗、環境、マスコミ、歴史など、1つ1つの専門領域でとらえられない部分が多くなり、複数の領域にまたがった研究が必要になってきている。一方、地域や個人の存在を広域的・国際的な視点からとらえ、固有性や個性を明確化することも必要となっている。さらに、これらを支える調査理論やデータ処理、情報メディアとその背景にある理論の研究も多岐にわたり、各領域内での研究にとどまらなくなっている。</p> <p>そこで、「地域分析」を共通テーマとして、各領域での研究を他分野と横断的に研究・討論を行うために、本研究会を設けるものである。具体的には、次の活動計画に示すとおり、国際的な研究交流と地域分析にかかわる領域間での研究者の研究交流を行う。これらを通して、これからの地域分析のあり方を明らかにしていくとともに、学外との連携や得られた知見を広く公開し、本学を新しい地域分析研究の中核となるべく基礎作りをめざす。</p> <p><b>【活動計画】</b></p> <p>本研究会では、地域横断的、領域横断的な研究会を中心に活動を行う。そのために、次の2つの研究会をもつ。1つは、国際研究交流として、海外の研究者を招き、海外の事情を含めた地域分析の研究会である。もう1つは、地域分析を必要とする学問分野、地域分析に必要な学問分野が一堂に会する研究会を催し、お互いの情報交換・研究交流を行い、今後の地域分析のあり方を検討する研究会である。これらの研究会を年計6回程度開催し、このうちの数回を公開シンポジウムなどの既存の研究成果や得られた新たな知見を学外へ公開する形式をとることで、学内外の研究者や関心のある市民とも研究を深めていく。また、院生および学部生（ゼミレベル）の教育の場としても活用していく。各研究会の告示と活動報告については、Webページを積極的に利用し、研究成果については、各研究会での冊子作成・配布に加え、Webページでも広く公表していく予定である。</p>		
構成メンバー			
氏 名	所属学科	職 名	現 在 の 専 門
井上 堅太郎	社会情報学科	教授	環境政策
藤原 福一	吉備国際大学	教授	環境政策
森 裕一	社会情報学科	教授	情報データ解析
黒田 正博	社会情報学科	講師	情報データ解析
山本 義郎	東海大学	助教授	情報データ解析
小林 博昭	社会情報学科	教授	考古学
志野 敏夫	社会情報学科	助教授	地域交流史
徳澤 啓一	社会情報学科	講師	文化財学・考古学
泉 俊弘	社会情報学科	助教授	地域分析・地域政策
若林 芳雄	千葉科学大学	教授	経済学
西野 雅二	社会情報学科	教授	地域言語理解（独語独文学）
中島 聰	社会情報学科	教授	言語哲学・言語の論理分析
河本 誠	社会情報学科	助教授	言語分析（英語学）
木村 邦彦	社会情報学科	助教授	マスメディア
高野 洋志	社会情報学科	助教授	民俗学・社会学

**講演会・講習会等の名称、目的、実施計画、概算額（各事業ごとに詳しく記入下さい。）**

1. 国際研究交流会

【目的】国際的な視野からも地域分析の研究を進めるために、外国人研究者を招き、研究交流を行う。本年度は、経済と環境政策をテーマに、下記の2名の研究者の講演と当該テーマに関する研究討論を行う。

【実施計画】

第1回 Wolfgang Härdle 教授 (Institut für Statistik und Ökonometrie, Humboldt-Universität zu Berlin, ドイツ)  
「データサイエンスー計量経済分析とe-statー」

2005年5月を予定

第2回 Bao Maohong助教授 (Dept. History, Peking University, 中国)

「中国の環境政策の現状と課題」

2005年11月を予定

【概算額】講師謝礼 30,000円×2人, 配布資料作成費10,000円

(各講師とも上記開催日には来日しているため, 海外からの渡航費については不要。)

2. 一般研究会

【目的】関連領域の研究者が集まり, 各領域の研究成果についての情報交換・討議を行い, 学際的, 多面的な性格をもつ地域分析を, より分野横断的に研究する研究会を開催する。ここでは, 次のテーマでの研究会を予定している。

【実施計画】

第1回 「(仮)地域環境問題の新しいアプローチー環境政策と地域政策の融合ー」

2005年4月

第2回 「(仮)歴史が語る地域ー岡山の先史時代の植物食ー」

2005年6月

第3回 「(仮)言語情報と地域の理解」

2005年12月

【概算額】配布資料作成費5,000円×3回

1, 2の各研究会は, 可能なものについては公開形式をとり(場合によっては公開講座), 学内外の研究者や関心のある市民とも研究を深めていく。また, 院生および学部生の教育の場としても活用していく。

3. 公開シンポジウム「地域分析と社会調査」

【目的】地域分析には, 客観的な統計データによりその基盤としての現状分析が必要であり, 各種統計データの整備・活用が不可欠である。一方, 社会調査に必要な基礎的な知識・技能と相応の応用力と倫理観を修得した人材として認定する公的な資格として, 「社会調査士」が2004年度から設けられた。そこで, 社会調査士資格認定機構の構成団体との協力の下, 県内の関係者・各機関を含め, 社会調査士の果たす役割と地域分析の関係についてシンポジウムをもち, 地域分析における調査のあり方についてパネルディスカッションを行う。

【実施計画】日本行動計量学会(およびその岡山地域部会)との共催とし, 公開シンポジウムとして実施予定  
2005年10月を予定

【概算額】講師謝礼 30,000円×2人, 配布資料作成費10,000円

各研究会の告示と活動報告については, Webページに公開していく。